第１章　インタビュー記録

熱いものは怖くない
渡辺　広一さん（仮名）インタビュー記録

2004 年 7 月 21 日　18：00～前半
徳島大学総合科学部１号館第２会議室にて
質問：佐々木　実花

１．障害の等級について

私は義手をつけています。私は障害者手帳を持っており、１種１級です。１種には付き添いが付きます。付き添いとはつまり介助者のことです。飛行機などの乗り物に乗ったときに介助者も割引がつきます。１級、２級、３級というのは障害の重さです。１級が１番重いです。１級の人のほとんどが１種です。２級の人の中には１種と２種の人がいます。２種というのは介助者がつかないものをいいます。要するに介助者がいてもその人たちに特典がつかないのです。

２．義手の操作方法

私がつけている義手は手を伸ばせば開くようになっています。これがワイヤーで〔写真 1、矢印２参照〕、これ〔ワイヤーの部分〕を引っ張ると開きます。

３．義手のゴムの秘密　その１

これはどこにでもある輪ゴム〔写真 1、矢印１参照〕。元々は別のゴムが入っていたんですけど、輪ゴムが一番調節し易いからつけることにしました。きつくしたりするのに便利なんです。ずいぶん前から輪ゴムにしました。付け出した当初はタイヤを切ってつけていました。強いという意味で。既製品にはまた別の既製品のゴムがついていたんです。しかしこれは切れても買い増しができませんね。ですからチューブを貰って来て、それを切ってつけていたんですけど、そんなことするより輪ゴムが一番だと思ってね。

３．事故の原因　その１

私がこうなったのは 17 歳の時です。高校２年の秋に、実験でやってしまったんです。火薬の実験で、花火を作ってたんです。正確には発炎筒ですね。オリンピックの時、トーチが走るでしょ。あれを作ってたんです。危険な実験をしてたんです。その時に爆発してしまったんです。

４．ワイヤーの秘密

義手をつけるようになってからいろいろ不便なことがありましたが、一番不便だったのは、よくワイヤーが切れたことです。そのころの義手は学者が考えた理屈通りの装置だったのです。実物がないと説明しづらいのですが、とにかく今私がつけているのが一番簡単な方法です。どうしてこうなったかと言うと、まずこれは壊れないのです。それとね、布の紐を使っているのです。これはワイヤーです。昔はね、ここまでずっとワイヤーだったのです。ワイヤーと紐とどっちが強いと思いますか？当然ワイヤーが強いのです。ところがワイヤーはねじれに弱いのです。ねじれると、ワイヤーは鋼鉄ですからすぐに切れるのです。何かの拍子にねじれるのです。それと、それまでは義手をリュックサックのように背負っていたのです[1]。作るほうも大変で材料費も多くかかっただろう。夏は暑いし皮はくさいしね。もう本当に嫌だったのです。

A 県に帰ってきて新しいのを作る時に、実験してみると言われました。義手屋のおやじさんも大丈夫かって相当訝ったのですけどね。ワイヤーというのは、ひどい時には新品作って１ヶ月くらいで切れていたのです。それが３年も４年も持つ。ちょっとしたことで、ねじれて切れる時がある。これ〔写真 2 参照〕はねじれて切れかけになったから、私が紐で結わえてボンドで引っ付けたの。本当にこういうのは使う人の工夫です。それで、私があんまりよく使うので義手屋のおやじが富山かどこかの、こういうことを研究している人に言ったらしいのです。D 大学にいた人で C 県に行った人だったかな。それで私のところに紹介状が来てね、写真撮って送ってくれって手紙が来ました。それで写真撮っていろいろ書いて送ってあげました。最初からこうしておけば本当に楽だったのに、と思う。頭の中で考えるのと、実際に使って改良してみるのとではずいぶん違いますね。

５．義手を受け入れる

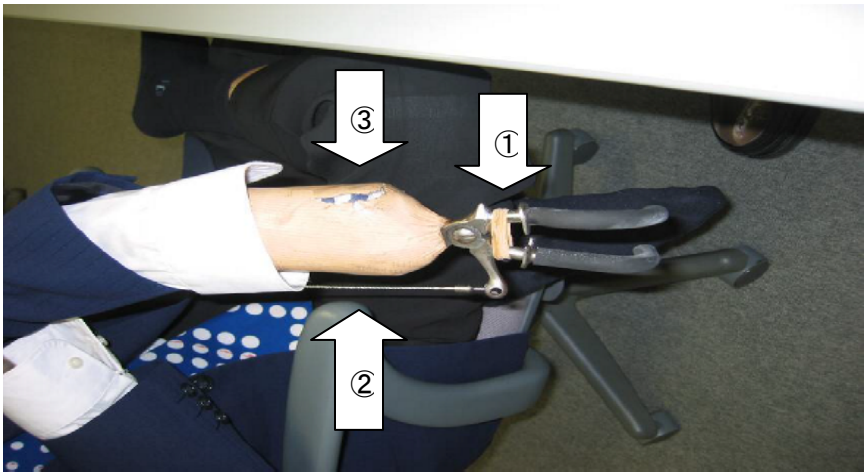
義手を受け入れるのは、私はそんなに抵抗ありませんでしたよ。仕方ないなと思って。皆さん、「自殺も考えたのでしょう」とか聞くのですけどね、自殺なんて考えたこともない。仕方ないなって。家族は心配したでしょうね。びっくりしたでしょうね。その頃バレーボールの選手だったのです。それがもう出来なくなりましたからね。

６．事故の原因　その２

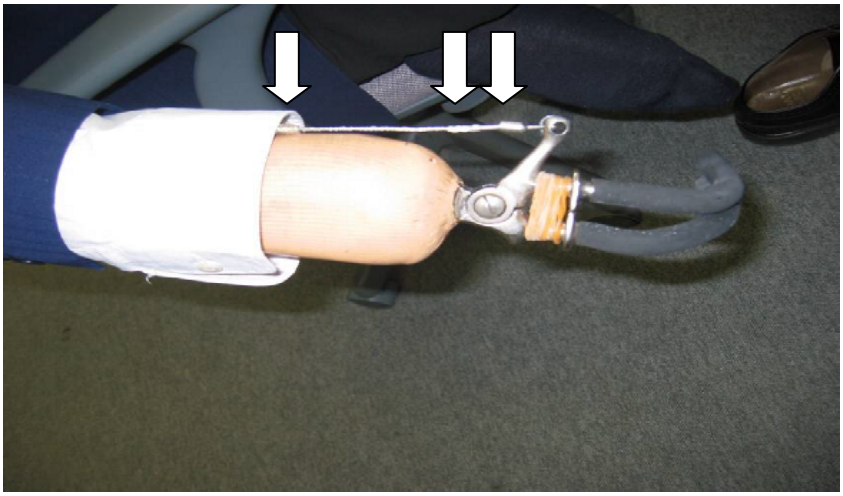
バレーボール部には１年の時に属していました。私の学校は進学校だったですから、体育部にいるということは非常に肩身の狭いことだったのですよ。それで２年の時に辞めました。私は科学が好きでしたので、１年の時には科学部に入っていたのです。そこで、友人から発炎筒作ってみないかって言われて。どうして作ったかと言うとね、その日は運動会の日だったのです。例えば野球部の人は、リレーのバトンにバットを使うのです。ラグビー部の人はバトンにラグビーのボールを使うのです。そしたら私は科学部ですから、ある人が考えて、発炎筒作ってくれっていうことなったのです。それで私が火薬を調合して

[1] 左右の義手が背中で背負うような形で繋がっている。

発炎筒を作って、実験したらバカンと爆発したのです。運動会の日に。



【写真１：①輪ゴムに取り替えている　②ワイヤー　③コーティングが破れている】



【写真２：ワイヤーを紐でくくり、ボンドで接着したところ】

７．ゴムの秘密

長い間チューブを使っていましたよ。A 県に帰って来てからも使っていたように思う。おそらく 10 年から 15 年は使っていたでしょうね。そのうちに輪ゴムのいいのが出て来ましたね。輪ゴムは巻いてみると結び目がないですからね。タイヤは必ず結び目がありますから。結び目っていうのは邪魔ですね。汚いし、解けますしね。解けたらバサっと落ちます。解けたらすぐに結ばざるを得ませんね。自分では結べないですから誰か周りの人に結んでもらいます。15 年くらいたってから輪ゴムに変えて、今に至りますね。

８．したいけどしたくない義手の交換

義手の交換は、法律上は３年か４年で変えられます。ところがこれは、１５年から１８年使っていますね。どうしてかと言いますと、いったん使い始めたら変えたくないからです。変えてしまうと合わないから。使っているのが一番便利なのです。これはもう、こんな風になっているんです〔写真１、矢印③参照。表面のコーティングが破れている〕。汚い話ですけど。実はもう新しいのを作ってもらってるんです。ところが新しいのには腕が上手く入らないの。無理して入れたら今度は抜けないんです。自分にぴったりのを作ってもらおうと思えば出来るのかも知れないんですけど、実際にはなかなかできないんです。

９．研究者への要望

こういう製品〔義手のこと〕売れますか？市場性ありますか？ないでしょう。日本中探したってこれを使ってる人は数えるほどしかいない。これ生産中止なんです。それで別の義手をつけてみたんですけど、上手くいかないの。これ、固定されていますね〔写真３参照〕。これは３つの接点で押さえているんです。ところが別のは接点が２箇所なんです。ですから、ペンを持ってもグラグラするの。次の新しいのを、義手屋が取りに来いって言うんですけど取りに行ってないんですよ。もしも論文書かれるのならこういうのこそ書いていただきたい。これは儲けにならないから作らない、と言うのではなくて何か作ってもらいたいですね。何かで訴えようと思っていたんですけどね。それと、研究がなされてない。ずっと昔に、３箇所で出来ないかとわざわざ聞いたんですよ。それなのに今度の分にはそれがないんですよ。それを付けたときにグラグラしてね。ですから、もう取りに行かないで古いのを使っているんですよ。もう嫌なんです。もちろん新しいのに早く取り替えたいという気持ちは強くあるんですよ。忙しいから取りに行けないというのもあるんですけどね。

【写真３：３点で固定されているのでペンもグラグラしない】

１０．　高校時代～今

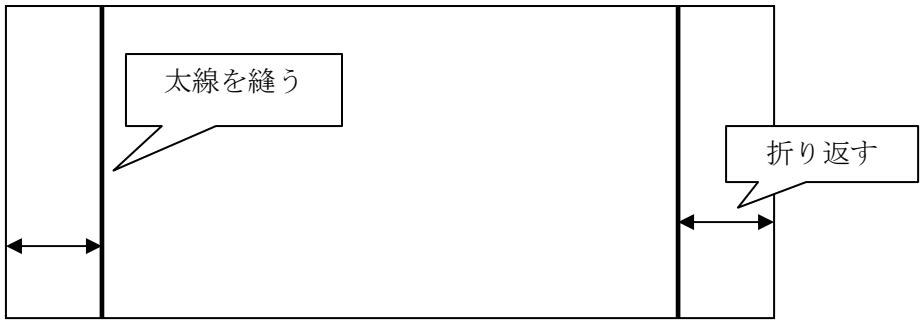
高校はＴ高校です。そしてＢ大学の法学部に行きました。それから卒業してＡ県庁に入りました。そこで59歳まで働きました。勧奨退職だったんです。今一番給料を貰っているのは県の研修センター。

１１．　義手の日ごろの手入れ

義手はタオルで拭いて手入れしています。それから、汚くなったなと思ったらハイター（漂白剤）の中へ浸けます。きれいに落ちるんです。義手は全部取ってハイターの中へ浸けます。そしたら、こういう黒いの〔ワイヤーが擦れて黒く汚れた部分の説明〕が綺麗に取れるんです。一晩浸けます。１年に１回とか、気が向いたときに。拭き掃除も毎日じゃないです。おしぼりが出て来た時〔外食をしてお手拭が出てきた時〕に。お風呂に入る時は全部外します。

１２．　入浴時の工夫　その１、ズボンのファスナー

ちょっと紙貸してください。あのね、手ぬぐいがこうあるでしょ〔図①参照〕、この端を折り返すんです。そして折り返した所を縫うんです。すると袋になりますね。袋に手を入れて洗うんです。東京の身体障害者厚生…という国の施設で一番最初義手を作ったんですが、そこで指導を受けました。こういうの作ったらいいですよって。それからね、昔はここ(ズボンのファスナー)ボタンだったんです。今はチャックでしょう？だからファスナーにしなさいとかね、あの時言われたのはその２つだったかな。



【図１：手ぬぐい】

１３．　トイレ・旅行

家のトイレは水洗で、ウォシュレットが付いてますね。しかしそれまでは紙でしたね。でも別に不自由はなかったです。きれいに拭けました。

旅行では国内も国外も困ったことはありません。

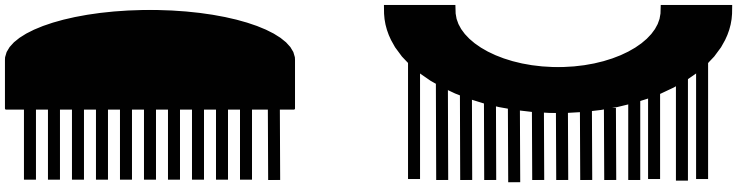
１４．　熱いものは恐くない

障害者って言うのはね、見た目ほど不自由じゃないんですよ。「あんた不自由だろう」ってみんな言うけれども。でも私が、「あんた、うどん茹でる時に硬さどうやって調べるの？私なんかこうやって掴んで調べればいい。あんた出来るかい？」って聞いたら、「熱くて出来ん」って言うけど。ですからね、それほど不便じゃないんです。

ただね、つい最近女房に一言文句言ったんですけどね。オーブントースターの上にそんな紙〔普通の白い紙〕を置いてるんですよ。私は今までトースター焼くときにね、紙が邪魔になるな、と思ってどけたりしてやってたんだけど、このごろ暑いですから、たまたま義手を外したままトースター使って上の紙に触ったら、すごく熱いんですよ、その紙が。それで、「危ないじゃないか」って言ってね。義手で触ったら熱くも、冷たくもないですからね。今まで平気だったんです。ですから危ないなぁと思ってね。それぐらいですよ。ある面で便利ですよ。よかったら片手ぐらい義手にされたらどうですか？火でも掴めますよ。

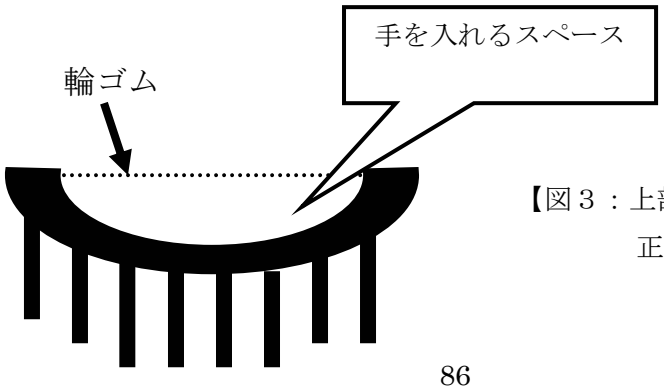
１５．　入浴時の工夫　その２

頭を洗うときのブラシがあるでしょう。私もずいぶんそれには困ったんです。そこで、ちょっと簡単な図を書いてみますね。〔図２参照〕こういうブラシがありますね。それで横から見ると、こうなってるのと、こうなってるの〔図２左：ブラシの上部が丸く盛り上がっている物と、図２右：へこんでいる物〕があるんです。



【図２：上部が盛り上がっているブラシ（左）と、
上部が凹んでいるブラシ（右）。正面から見た図】

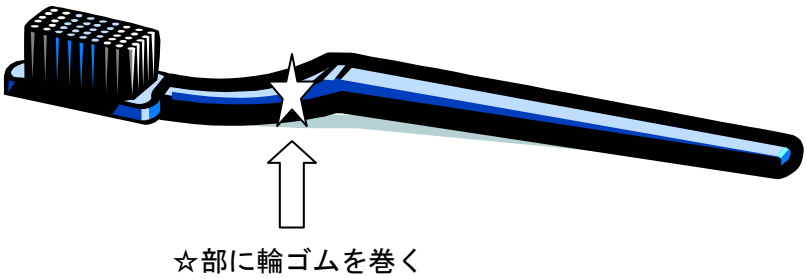
私はこういうの〔図２右：上部がへこんでいる物〕をずっと探してたんです。ここ〔図３参照〕にゴムを巻くんです。そして、手を突っ込んで頭を洗うんです。ところがこういういいのがないんです。これ安物でしょ。大体安物なんです。高価なのは、上が丸くなってますよ〔図２左参照〕。



【図３：上部が凹んだブラシ。
正面から見た図】

【図４：輪ゴムの巻き方、紐の取り付け位置】

これ〔図２左〕は輪ゴムを巻くとすると、まず入れるのが不便なの。ここ〔図２右〕ですとね、輪ゴムがこう〔ブラシの上部と輪ゴムの間に手を入れる隙間が出来る〕なるでしょ。でもこれ〔図２左〕でしたらぺたんと引っ付いてるから〔ブラシと輪ゴムの間に手を入れる隙間がない〕駄目なんです。それで工夫してね、ここに〔図４☆〕紐をつけたんです。そしてこの紐を引っ張るんです。そうするとここが〔ブラシと輪ゴムとの間〕浮くから。紐を引っ張ると輪ゴムがプーッと浮いてくるでしょ。ところがね、これ〔図 2 左〕ですとね、これがクリクリクリクリ動くんです〔クシの上部が曲線になっているので安定が悪い〕。シャンプーがついてるからね。それで困ったなと思ったんですけどね、まぁこれは、いくらかきつくすることで解決しました。これを〔図２右〕大事に大事にしててもね、何年も使ってると歯が抜けてくるんですよ。こんな安物は、いい所の 100 円ショップでいくら探してもないの。ですから今はもうこれ〔図２左〕にするしか仕方ないなと思って。



【図５：歯ブラシの工夫】

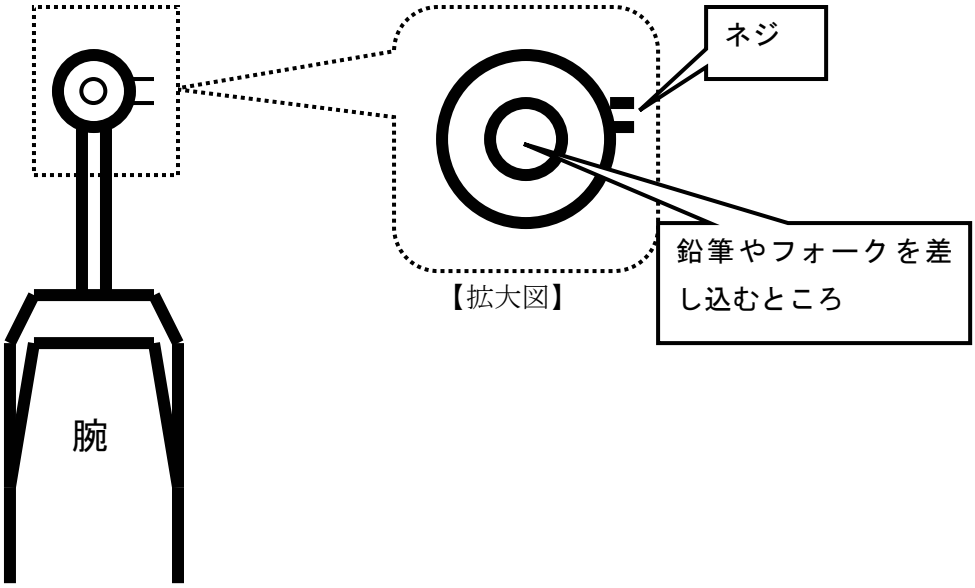
それから私が工夫してるのは歯ブラシです〔図５〕。歯ブラシ使ってるとね、よだれがこっちに流れて来ませんか？皆さんの手はね、きれいに掴んでいられるんです。私はそれ〔よだれ〕が来るとね、ツルツル滑るんです。それで困ってね、私がする時にはこっちを磨く時にはこうやってして、こっちを磨く時にはこうやってしてたんですけどね[2]、いくらして

[2] 右を磨くときは体を左に傾け、左を磨くときは体を右に傾ける。

ても流れて来るんですよ。それで一計ありましてね、ここ〔図５☆〕で輪ゴムを巻いたんです。そうして、流れてくるのを止めるようにしたんです。これをし始めたのはそんなに古くなくて３年くらい前からですね。だからね、それまでは後ろ向いたり、ちょっと唾が溜まると吐いてはこう〔体を傾けていた〕やってたんです。これは何十年も。たくさん溜まると駄目ですよ。輪ゴムで止まらないで流れて来ますからね。ちょっとなら大丈夫です。こういう工夫が大事ですね。

１６．　事故後、義手をつけるまで

事故があって２０日くらい入院しました。11 月に２０日間くらい入院したんかな。そして 2 ヶ月ぐらいして義手をつけたように思いますね。東京までつけに行かないといけませんでした。それと、傷口がもう完全に良いという医者の判断を得てから春休みに行ったのかな。私の母も、教員で勤めてましたので、冬休みではなくて春休みに行ったのかな。１1 月に事故しましたから、春休みに行ったのかも知れない。県にも身体障害者指導所っていう所があるんだけど、そこで仮の義手〔図６〕を作って貰ったね。あんまり生活に役に立たなかったですがね。非常に簡単なつくりでしたよ。私の手に被せる様に装着するんです。先に穴が開いてるだけ。ここにネジが付いていて、こいつを差し込んでネジで締めて字を書いたりしてましたね。鉛筆を持つ時などは 1 回 1 回ネジを締めていましたよ。面倒臭かったですね。この鉄の先に、フォークをつけましてね、ここを鋲で留めて、それを丸い所にチョイと差し込む。だからフォークは使えました。使うのは全部フォークでした。



【図６：最初につけた仮の義手】

１７．　服装について

休日の服装も大体今着ているようなものです。ネクタイはしてませんけどね。ボロのズボンにワイシャツ。ワイシャツはボロになったら外に着て行けないから家で着てる。たまたまワイシャツがたくさんあるから、着ないのはもったいないから着てるんです。それと、タートルネックはくすぐったいから嫌いなんです。ですから、ワイシャツを着てます。ポロシャツはあんまり好きじゃないから着ません。それか、スポーツウェアね。『大草原の小さな家』っていうの、観ますか？あの時アメリカ人が着てるでしょ？その生地がちょっと厚っぽいウールなんです。ネクタイはちょっと締めれないですけどね。襟の付いたものです。それが好きで昔から着てたんですけどね。今は子供が残して行ったのがあるから、もったいないんで大きいけど着てます。３枚も４枚もあるんです。もったいないからね。あれ、買うと高いんだと思う。

１８．健康への配慮

健康に気をつけて食べているものには玄米があります。炊き方によって硬くなったり軟らかくなったりします。圧力釜で炊くとそんなに硬くなくておいしいですよ。白米ほどはおいしくないけどね。23，4 才の時から玄米にしてます。私はもともと体が頑健だったんです。東京で 4 年間生活して体壊しましてね。これはいけないと思っていろいろな本読んだら「玄米菜食」っていうのがありましたのでね。その時体の調子が悪いんで、医者に行ったんです。そしたら糖が出ていると言われましてね。糖尿ですね。糖尿病じゃないんですけど糖が出ていて、肝臓の異変があると言われました。私びっくりしてね。それは糖尿病じゃなかったんですけど。私も 4 年間の生活が悪かったなぁと思ってね。確かに悪かったんですよ。好きではないんですけど 3 食ともラーメン食ったりね。昔から食べるものには気をつけてたんです。私が中学３年の時の教師が体育の先生でね。食い物が大切だってことを度々言ってたので、私はそれには気をつけてたんですけど。それでこんなことになったので困ったなぁと思って玄米菜食。ですから今は、毎年身体検査をして B が１つだけ。後は全部 A。で、B は何かって言うと身長に比べて体重が軽いと。私太りたいんですけど。羨ましい人ちょっとください。太らないんです。

※　〔　〕内は佐々木

インタビューのポイント

- 強気な発言をしていた点。例；お湯に義手を突っ込んでも熱くない、旅行で困ったことはない、等
- 義手を使いやすいように改良していた点　例；輪ゴムを利用、ボンドで補強、等
- その他の様々な工夫　例；頭を洗う時に使うブラシ、体を洗うタオル、歯磨きの時の輪ゴム、等

感想

今回インタビューをさせていただいて最も印象に残っているのは、渡辺さんの強気な発言である。例えば、うどんの固さを調べるのに、渡辺さんは直接湯の中に義手を突っ込んでうどんをつまみ上げることが出来る、よかったらあなたも義手にしてみませんか、とおっしゃっていた。義手をつけて生活するのは、私たちには想像できないほど大変なことに違いない、きっと様々な苦労話が聞けるはずだ、と想定して質問したはずなのに、逆に義手を勧められてしまった。障害を持って生活されている方に対して私はどうしても偏見を抱いてしまうが、多分それは私だけではなく、他の多くの健常者の方も同じではないかと思う。それに対して障害を持っている方は、健常者からの同情に対する返答方法を日頃の生活から身につけているのではないかとも思う。うどんの事例や、トースターを直接触っても熱くないという話などは、これまでに何度も健常者に対して披露してきた得意話なのだろう。この類の話になると、渡辺さんはそれまでにも増していっそう流暢に話される。日ごろ話慣れていない事を話される時と比較するとその差は明確である。例えば最初に義手をつけに行ったのがいつだったかを伺った時、渡辺さんは春休みだったか、冬休みだったかで悩んでいらっしゃったようだ。義手をつけ始めたのはいつか、などという質問は恐らくほとんど聞かれることがないのではないか。質問された時に初めて考えることだから、様々なエピソードを結び付けて結論づけるのに時間がかかるのだと考えられる。

渡辺さんの強気な発言から感じ取れるのは、障害と共に生きている方は健常者に同情されるようには自分自身を可哀想だと捉えておらず、義手を含めた自分の身体や工夫を凝らした生活に誇りを持っていらっしゃる、ということだ。健常者には分からない苦労もあるだろうが、それを上回る喜びもあるのではないか。そのことを健常者と障害者の両方の立場を経験してきた渡辺さんは良くご存知なのかも知れない。障害を後ろめたいものとして隠そうとするのではなく、得意話のネタにしてしまう渡辺さんの発言には、同情の目を向けることしか出来ない健常者に対して、障害に対する違った角度からの視点を投げかけているように感じた。障害者としての工夫に満ちた生活に対する誇り、そして障害に負けない人間の強さやしぶとさを感じた。